

「自然が元氣」への施策は

官民協働で環境改善を



みやがわのりみつ 議員 宮川 徳光

問 黒潮町は、「人が元氣、自然が元氣、地域が元氣、黒潮町」を町の将来像と掲げてして取り組んでいるが、私たちを取り巻く自然環境の現状認識と、将来像として掲げる「自然が元氣」の概要を問う。

答 松田 総務課長

現在の自然が元氣かと言えば、私たちが若かった頃からは、やはり少し荒廃しているなどと思う。

現在の思いとしては、人間が使用する化学物質で自然が

破壊されて来たと考えている。そうした中で、克服まではいかなくても、進まないような方向で対応しているのが現状でないかと思っている。従って、今後も自分たちの若かったころの自然を目指して、自然の回復に努めていきたいと思っている。

問 川や海は汚染等により元氣な状態とは言えないと考えるが、これらを元氣にするための施策を問う。

答 浜田 海洋森林課長

町では平成22年度に黒潮町生活排水処理構想を作成し、出口、蟻川、鈴の3地区に生活排水処理施設を設置。今後は合併浄化槽整備に重点を置き、計画的に設置を行う予定。

佐賀地区では、清流を保全するため伊与木川清流保全条

令が制定され、また、漁協女性部が中心となって、EM菌(有用微生物)の活用による河川、水路の水質浄化と住民の環境意識の向上を図っている。

問 水質汚濁の原因の大部分は私たちの生活排水とのこと。長年にわたる合成洗剤などの使用で、土の中に本来いべき微生物(土着微生物)を減少させ続けて来たことが原因と考えた場合、マイエンザ(微生物活性酵素)やEM菌などを活用して川、海の水質浄化を図ってはどうか。

答 松本 住民課長

町内にはEM菌やマイエンザを使った水質改善などに取り組んでいるグループがある。

行政もこれらの取り組みを推進するため、講演会や研修会を開催しており、今後も官民協働で環境改善・保全に努める。また、持続可能な環境維持のためには住民の環境への意識付けも必要であり、今後引き続き啓発も進める。

問 環境問題は、幼児期から教育や地域の催し物などを通じた意識付けが大事と考えるが、その取組みを問う。

答 坂本 教育長

学校での環境教育への取り組みには、発達段階に応じた配慮が必要。小学校低学年では、体験や感性の育成が重要で、学年が上がるに従い、課題発見とその解決に向けて、実践力や思考力を高めていく

などとしている。取組みの一例として、EM菌を使つてのプール清掃なども行っている。昨年度、「私たちの黒潮町」という社会科の副読本を作成し、地域の環境問題も取り上げている。大切なのは、学校教育だけで環境を守る意識や行動を培うのではなく、家庭や地域社会と連携した取り組みにより、環境問題に対する理解を深めていくということではないかと思う。



EM菌でめめりも取れ、プール掃除も楽々(入野小学校)